

インタビュー

地域の支え合い活動を広める 機関紙「すみよしさん」

地域の支え合い活動の発掘や立ち上げの支援を行う生活支援コーディネーター。松阪市に5つある地域包括支援センターに一人ずつ配置されています。今年6月より地域の交流や支えあいの場である「地域の宝」を皆さんに知ってもらうために機関紙「すみよしさん」を作成・配布しています。今回は生活支援コーディネーターの皆さんにお話を伺いました。



生活支援コーディネーターの役割とはなんですか？

私たちは、地域のつながりや住民同士の支え合いを知り、地域に埋もれている課題を発掘、それに対応できる機関へとつなげることが主な役割です。

近くに歩いて買い物に行けるお店がなくて困っているという地域の声を聴いて、生活支援コーディネーターが様々な機関に働きかけ、移動販売の導入が実現したこともあります。その地域に向いて交流し、普段の生活の様子や地域の現状と課題などをしっかり聴くことを大事にしています。

「すみよしさん」の創刊のきっかけを教えてください。

松阪市には地域の方が交流したり、支え合ったりする場がたくさんあります。

私たちはそれを「地域の宝」と呼んでいます。その「地域の宝」を多くの人に知ってもらい、活動を広めるためにはどうすれば良いのかを話し合い、機関紙を発行することになりました。機関紙の名前には、「松阪市に住んでよかった」住み良し」と思っていただけだからという気持ちで込められています。

日々の活動を見る形にすることで、参加者の皆さんのやる気アップ、そして



(前列)左から
第一地域包括支援センター 松尾 浄子さん
第三地域包括支援センター 長谷川 英里さん
第五地域包括支援センター 赤松 美佳子さん
(後列)左から
第二地域包括支援センター 辻 健太郎さん
第四地域包括支援センター 吉住 岳人さん

新しい集いの場を作ろうとする方のきっかけになればと思います。「すみよしさん」を通じて身近な地域で活動している多くの場を知り、今後お住いの地域でも取り組んでみようと思う方が増えていくように、私たち生活支援コーディネーターは、地域に向いて取材をし、地域で介護予防やささえあいを大切にしながら交流をしているグループの活動を広めていきますので、お気軽にお声がけください。

【問】 高齢者支援課 ☎53-4099